

大きなけやきの木の下で 絵本のはなしをしましょうよ。



2025年3月のはじめごろ こまばようちえん

みなさま、こんにちは！幼稚園の桜の花芽がふくらんできました。先日、家の愛犬と散歩をしていたら、沈丁花の良い香りがしてきました。マスクをしても、匂ってきて、春を実感しました。さて今年度最後の「絵本ブックトーク」をお届けします。卒園するかえでさんたちに読んでほしい絵本を、園長先生、竹下眞理子先生にも紹介していただきました。そして近藤千春先生からメッセージもいただきました。これからもこどもたちのそばに、いつも絵本がありますように……。では、大きなけやきの木の下で、絵本のはなしをいたしましょう。

須藤麻江

【本のへや】からこんにちは♪ 近藤千春*****
〈かえで組さん、ご卒園おめでとうございます〉～保護者の方へメッセージ～
【子どもは親の言うことは聞かないが、親のまねをする】…子育てを終えた頃に出合った言葉です。ハッとしました。心の底から納得し、親としての自分のこれまでや、我が子のいろんな姿を思い返しました。いやー、参りました(笑)。
というわけで、完璧な親なんてどこにも存在しません。完璧じゃないからこそ、いろいろ失敗したり、悩んだりして当然なのです。常々、子どもには「失敗する自由」が保障されるべきと思っていますのだけれど、子どもに「親として育てられている親」も同じです。ヘンに気負わず、先のことを心配しすぎず、でも、ここぞという時には深呼吸して立ち止まり、次の一步を踏み出せるといいですね。実は、魅力的な「絵本や児童書」「昔話」には、子どもが幸せに育ち・育てられるヒントまでもがちりばめられているので、子育ての力強い味方になります。

字が読めることと内容をじっくり楽しむことはまだまだイコールではないので、これからも一緒に楽しく読み合ってくださいますように。

親から子への、安心の「耳から読書」は、子育ての旬・期間限定。「“今”を全力で生きる子ども」と一緒に、いろんなことを「おもしろがって」幸せにお過ごしくださいね。どうかお元気で。（近藤）



※おすすめです→『ひとりよめたよ！幼年文学おすすめガイドブック 200 ～読んでもらう楽しさとひとりで読めるよろこびを子どもたちに』大阪国際児童文学振興財団 編 評論社 2019年 2750円

① たんぽぽ組・年少組のみなさんに。



●『ふうとはなとうし』いわむらかずお 作・絵 童心社 2010年/1650円

いわむらかずおさんの描く動物たちって、とても愛らしい。ふうとはなは兄妹です。のはらに遊びに行きます。オオイヌノフグリやハハコグサやアリンコやチョウチョなどがさりげなく描かれていて春を感じさせてくれます。ふうとはなは、のはらで大きな牛のおばさんと出会います。おなかには赤ちゃんがいるんですって。ふうとはなと牛のおばさんとの会話がのどかで、野原にふくやさしい風のようにです。ゆっくりページをめくりながら文章も絵も味わってほしい絵本です。

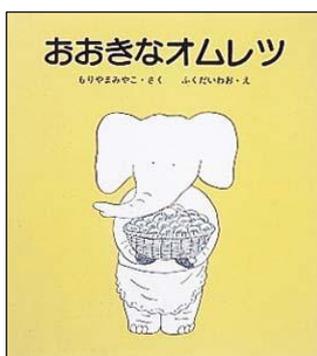
（須藤）



●『おすわりくまちゃん』

シャーリー・パレントー文 デイヴィッド・ウォーカー絵 訳福本友美子
岩崎書店 2010年/1430円

くまちゃんが、表紙に4匹いますね。左からぽちぽちくまちゃん。ふわふわくまちゃん。きいろいくまちゃん、ぷよぷよくまちゃん。一人に一つずつ椅子があります。ところが、ちゃいくまちゃんがやってきます。椅子が一つ足りません。ちゃいくまちゃんは、ぷんぷん。ぼくも入れてよ。一つの椅子にちゃいくまちゃんと座ろうとしますが、椅子が小さくて座れません。ちゃいくまちゃん、しょんぼり。さあ、どうしよう。くまちゃんたちは知恵を出しあって、全員、座ることができました！ちゃいくまちゃん、よかったね。くまちゃんたち、優しい！（須藤）



● 『おおきなオムレツ』

もりやま みやこ さく ふくだ いわお え ポプラ社 1999年(重版未定)

バスケットに山盛りの卵を使って、ぞうさんがオムレツを焼きました。美味しそうな匂いが森中に広がって…ぞうさんの家にやってきたのは、リスやキツネ、イノシシ親子やクマたち大勢の動物。「うわあ、おっきなオムレツだ！」喜ぶみんなにごちそうしたので、ぞうさんが食べたオムレツは、残りの「ほんのぽっちり」だけ。次の日の朝、ぞうさんの家の前にはなんと、それぞれの動物たちからお礼の品が届けられていました。ぶどうと卵、サツマイモと卵、花と卵、ドングリと卵、ハチミツと卵、という具合に。ぞうさんは早速、それらの卵を使って大きなオムレツを焼くと、「こんどは、ひとりでゆっくりと」食べたのでした。

これを幸せと言わずして何と言う。善意と親切のやりとり。シンプルでやわらかな描線と、あたたかみのある黄色も印象的。春に包まれたような優しい読後感に満たされます。（近藤）



● 『どのはな いちばん すきな はな?』

いしげ まりこ ぶん わきさか かつじ え 福音館書店 2012年/990円

この絵本をご紹介できるあまりの嬉しさに、ルンルンしています。

タイトルの「どのはな いちばん すきな はな?」に答え、春から初夏にかけて咲く花たちが次々と登場。「ぴゅーんと」のびたり、「ぽん ぽん」ならんだり、「ふんわり そよそよ」そよいだり。絵を手がけたのは、かつてはマリメッコやラーセンで・今は国内の sou-sou デザイナーである、わきさかかつじ氏。語呂良くリズムカルな文章は、読んでいてウキウキしてきます。ちなみに〈赤ちゃん親子と楽しむおはなし会〉でわたしが読むときは、花が咲く各ページで「どのはな いちばん すきな はな?」と聴き手のママさんたちに歌ってもらってから、書かれている言葉を歌うように読んでいます(自然と歌いたくなる)。(近藤)

② 年中・年長組のみなさんに。



● 『ぼくのママはうんてんし』

おおともやすお 作 福音館書店 2012年 /1430円

のぞむのママは中央線の運転士。パパは病院の看護師です。のぞむと妹のあゆみが通うのは「かしのき保育園」。保育園では子どもたちは毎日線路の上を渡る跨線橋を歩いて散歩に行きます。この跨線橋から、走っている中央線が見えます。のぞむはママの誕生日に、パパとあゆみと、ちょうどママの電車が跨線橋の下を通る時間に合わせて旗をふる計画を立てます。けれどもあいにくその日は雨がざんざん降ってきて、パパも急な手術で間に合わなくなってしまいました。ママの電車が跨線橋を通過する時間がだんだん迫ってきます。泣き出すのぞむ。さくら

先生とみんなが、立ち上がります！ドキドキドキ。臨場感たっぷりのお話です。
(須藤)



●『コンスケとはるのともだち』

すとうあさえ作 高橋和枝 絵 のら書店/2025年・1650円

3月3日に出版された私の新刊です。図々しく紹介させていただきます。「聞きなし」をご存知ですか。小鳥の鳴く声に耳を澄まして人間の言葉になおして楽しむ遊びです。春は小鳥がさえずる季節。コンスケは秋に捨てたどんぐりを大事にしていたのですが、そろそろ土に埋めてあげようと森に行きます。そこで出会ったキッコちゃんが聞きなしをしながら、コンスケとどんぐりの落ち着き場所を探します。駒場幼稚園の園庭にも鳥がやってきますね。聞きなし遊びをしてくれたらうれしいです。高橋和枝さんは和紙に顔彩（日本画で使用される画材）で描きました。色が紙に深くにじんできていくので、印刷で色を出すのがとても難しかったそうです。コンスケ、とてもかわいいです。キッコちゃんは、一体誰なのか、想像してみてください。(須藤)



●『はるがきた』

ジーン・シオン文 マーガレット・プロイ・グレアム絵 こみや ゆう 訳
主婦の友社 2011年/1430円

晩冬の街で、今年の春はなかなか来ないと憂う通りの人たち。すると、ひとりの男の子が言いました。「ねえ！どうして はるを まってなきゃいけないの？ま

ってなんかいないでさ、ぼくたちで まちを はるにしようよ！」…男の子のアイデアに、街の大人たちも大賛同。市長さんも巻き込んだ〈みんなで街を春にする作戦〉が始まりました。「おとこのこも おんなのこも、ともだちも おとなりさんも、みんな そろって、ペンキと はけと はしごを もって」…。ね、続きが気になるでしょ？

読み合うたびに、最後は子どもたちから満足気なうれしいため息が漏れ出て、こちらまで幸せな気持ちになります。余談ですが、わたしは名前に千の春を持っているので(千春)、春への思いは並々ならぬものがあることを書き添えておきます(笑)。(近藤)



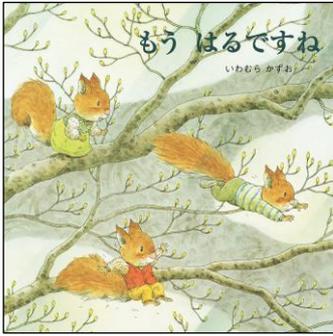
● 『えかきうたのほん』

中村 柊子・西巻 茅子 ぶん 西巻 茅子 絵 福音館書店 1993年(重版未定)

「絵かき歌」のHow to本?いえいえ違うんです♪ 表紙絵でクレヨンとスケッチブックを持っている女の子が、一人目の主人公まみこちゃん。まみこちゃんが「えかきうた」で描いた女の子「リリコちゃん」が二人目の主人公。そのリリコちゃんがさらに「えかきうた」で自分の友だちをどんどん増やしていく、ワクワクゆかいなおはなしです。ファンタジーからリアルへと一瞬で変わるラストページにも目が離せません。

えかきうたは元々、子どもと大人が創り・遊び継いできたもの。名作絵本『からすのパンやさん』の作者で子どもと遊びへの造詣も深かった、かこさとしさん曰く「絵かき遊びは、手指・視力・言葉・図形認識など、心身全体を動員して成長していく子どもそのものを表している」。…さてさて、この本を読むときにはぜひ、紙とペン(あればクレヨン!)を手に、リリコちゃんたちと一緒に唱えて描きながらどうぞ。(近藤)

③ 大人のみなさんに。



● 『もう はるですね』

いわむらかずお 作・絵 至光社 1985年/1320円

今回は「ふうとはなとうし」に続き、岩村和郎さんの絵本をもう1冊ご紹介します。岩村さんは2024年12月19日に亡くなりました。岩村さんは皆さんもご存知の通り、栃木県に「いわむらかずお絵本の丘美術館」を建てられ、森に暮らしながら、動物や植物や水、土、風などを絵本に描かれました。「14ひきのねずみシリーズ」が有名ですが、「ふうとはなのえほん」シリーズ、「タンタンのえほん」シリーズなど、愛しい作品は数多くあります。

「もう はるですね」はこりすの「ぼろ」「ぱろ」「びこ」が、「春になったら雪は空へ帰るのさ」というおとうさんの言葉を確かめに森へ出かけます。14ひきのねずみたちもそうですが、岩村さんの描く「家族」はなんて愛に溢れているのでしょう。岩村和郎さん、ありがとうございました。【須藤】



● 『子どもと子どもの本のためのヒント集 児童書作家の思いつき』

杉山 亮 著 仮説社 2022年/1265円

著者の杉山亮さんは、日本で初の男性保育士。以降は、おもちゃ作家→児童書作家→児童書作家&ストーリーテラーの二刀流でご活躍です(これをお読みの保護者の中で、小学生の頃『名探偵ミルキーシリーズ/杉山亮(偕成社)』がお好きだった方もいらっしゃるのでは♪)。この本は、著者の旧 Twitter で発信された選りすぐりの140個(2019年～)。筆者曰く「子どもと子どもの本や文化のためのヒント集」を意識したとのこと。

さて、タイトルにある「思いつき」って、どこか「軽い」イメージの語感があり

ませんか？ところがどっこい。読みやすいのに深い内容。筆者の長年の経験と思索に基づいた提言は簡潔で明るく、しかも具体的でありがたい。目から鱗が落ちたりしみじみ納得したり。子育てする上で大いに役立つと思いますよ。少しでも紹介しますね。

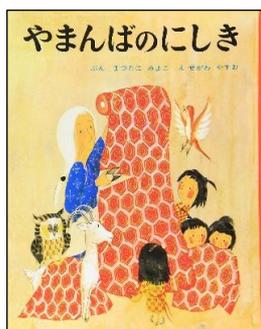
◎PTAの講演会で「子どもに良い本を」でなく「子どもに良い本箱を」と話し始めたら、意表を突いたのか、みな興味津々で聞いてくれた。子どもの頃、自分の4段の本棚を買ってもらい、並べ替えを楽しんだ。それは自分なりに本に序列をつけるということだった。本世界全体とのつき合い方は本よりもむしろ本棚から学んだ。

もうひとつ・・・(↓近藤要約↓)

○子どもは「好奇心のかたまり」だと無条件に讃美するのは違う。好奇心は好奇心のある大人や友達が側にいることで育つ感情だ。(近藤)

もうすぐ卒園するかえで組さんへ

◎杉本裕子園長先生から。



● 『やまんばのにしき』

まつたに みよこ(文) せがわ やすお(絵) ポプラ社 1967年・1980年

かえで組のこどもたちは、幼稚園生活の最後に、『ももたろう』の世界に飛び込んで、自分たちのお話の世界を創り出し、皆で冒険し、楽しみました。昔話として語り継がれてきた物語には、汲めど尽くせぬ豊かさがあることを、子どもたちの姿を見ていて改めて思いました。

さて、手厚く守られていた場所を巣立っていく子どもたちは、これから見知らぬ場所や人に出会い、困惑と発見、苦労と感動、落胆と喜びなどこもこも経験していくことでしょう。たじろいだ時や不安になった時、「それなら、おらがいっしょに いってやるべ、なに いこうと おもえば、みちなんぞ いくらもあるもんだ。」と静かに言ってくれるあかざばんばが心の中にいてくれたら、あるいは、「だれも かぜひとつ ひかねえように、まめで くらすよう

に、おらのほうで きをつけてるでえ。」と**ばんば**に約束する**やまんば**の言葉を聞いたことがあったら、それはきっと心強い道連れになることでしょう。外の世界に歩みを進めていく子どもたちに、こういう道連れがたくさんいてほしいと思います。

それにしても、子を産んだばかりの**やまんば**が、**あかざばんば**に助けられて産後の肥立ちの日々を過ごす様子が、心に沁みます。絵本の最後のページに画家が添えた美しい挿し絵は、母たちに贈られたもののようには思います。かえで組の子どもたちにはもちろん、お母様たちにも、是非お届けしたい絵本です。（杉本）

◎竹下眞理子先生から。



●『ねこのピート だいすきなしろいくつ』

エリック・リトウィン（作） / ジェームス・ディーン（絵）

大友 剛（訳） / 長谷川 義史（文字画）

さかたチャイルド 1,430 円/2013 年

最近、海外の絵本を好んでよむようになりました。その中の 1 冊を紹介します！

1 匹のピートという名前のねこのお話です。ピートはある日、新品の白いくつを履いて出かけます。真っ白のくつがうれしくてうれしくて、「しろいくつ、さいこう！！」と歌いながら歩きます。4 本の足に白いくつ！ “さいこう” な姿のピートです！！ いちごの山、ブルーベリーの山、泥の山（こまばの子どもたち、大好きですよ！）…様々な場所を歩く度に、真っ白だったくつが…

“なんてこった！”

その度にピートは、どのような気持ちになったのでしょうか…？ ピートは、歌いながら自分の気持ちを表現していきます。そして、歌いながらまた次の場所に向かいます。

何があっても、そのことを受け入れて前に進んでいくピートに、よむ度いつも勇気をもらっています。

進学、進級と、これから新しいことがたくさん待っている子どもたち。

歌が大好きな子どもたちですから、ピートと一緒に歌っていると、元気をもらって前に進んでいく力が湧いてくるのではないのでしょうか。親子で一緒によんで、歌ってみてはいかがでしょう。大人の背中も押してくれる一冊です！
とにかく、歌も歌う姿も“さいこう”なピートです！ (竹下)

◎近藤千春先生から。



● 『こわいオオカミのはなしをしよう』

ウィリアム・マクリーリー作 佐竹美保 絵 小宮 由 訳
岩波書店 2019年/1650円

各ページにゆかいな挿絵が載っている読み物。とてもわかりやすく読みやすい工夫のされた作中作の構成で、読んであげれば5～6歳くらいから楽しめて、自分で読むのが好きな小学生の期待にも応えてくれることでしょう♪

「ねえ、なにかおはなしして」5歳の男の子マイケルは、寝る前のベッドでパパにおはなしをせがみます。マイケルはこわいオオカミが大好き。パパは、マイケルの意見やアイデアを次々と活かして、お得意の即興話をどんどんおもしろくしていきます。底抜けに楽しいおはなしは、一晩だけにとどまらず、次の夜も…昼にも…マイケルの友だちと一緒にの時にも…うまく中断しながらも引き続き語られる物語になっていくのです。パパのウソっこ話は子どもゴコロのかゆいところに手が届き、なにより、語るパパ自身が楽しんでいるのが素敵。そのうえで、親としての責任感と大人の遊びゴコロを併せ持っているパパは、成熟した大人です。転げまわるほど子どもを楽しませつつも、「ゆうき、やさしさ、こうきしん」を伝えたいパパの、祈りにも似た親ゴコロにはグッときました。良質な児童文学とは、子どもにとっても大人にとっても「おもしろい」物語。心からオススメです。
(近藤)

・絵本は ①たんぽぽ・年少 ②年中年長 ③大人の方へ、というように対象年齢にそって紹介しています。ただ対象年齢はあくまで目安です。お子さんが興味を示した絵本、お子さんに読んであげたいと思った絵本を見つけたら、手にとってみてください。

- 「重版未定」の絵本も積極的に取り上げています。図書館に入っていますし、リクエストが多くなると復刊される可能性もあります。
- 本の価格は税込です。
- ここで紹介した絵本は藤井チズ子前理事長からいただいた寄附金で購入し、「藤井文庫」として本の部屋に所蔵しています。背表紙の藤色の丸シールが目印です。移動図書館で、お子さんが借りていくかもしれません。新年度も引き続き、ブックトークと移動図書館をどうぞお楽しみに。